

大 学 図 書 館 問 題 研 究 会 京 都

URL : <http://www07.u-page.so-net.ne.jp/rg7/dtkk/index.htm>

〒 621-8555 京都府亀岡市曾我部町南条1-1 京都学園大学総合研究所事務室 大館和郎気付
(TEL) 0771-29-2392 (FAX) 0771-29-2388

春来たりなば 思い起こせよ

大図研の財政を

会費を納めてくださいね!

会費は最寄の支部委員へ



独立行政法人訪問記

金森孝之

3月4-5日と、平成13年より先行して独立行政法人となった、国立特殊教育総合研究所と国立国語研究所の2機関を見学しました。国立大学も平成16年には、独立行政法人となることが予定されていますが、上記の2機関は図書室も設けられており、独立行政法人にとっての図書室のあり方を探るには最適ではないかと思いました。何分にも、会計、法律などの知識も乏しいので以下の内容には、ひどい間違いもあるかもしれませんが、ご容赦ください。

(次ページに続く)

目次	会費納入のお願い..... 1頁
	独立行政法人訪問記..... 1頁
	第8回京都支部委員会報告..... 4頁
	ちょっと一服!..... 4頁
	数珠つなぎ(第56回)..... 6頁
ご意見・ご要望、投稿はメール、又はFAXで 編集気付 (dkamr302@kyoto.zaq.ne.jp) 田北まで	



1. 両機関の紹介

国立特殊教育総合研究所、国立国語研究所の2機関は、知らない人も多いかと思いますが。特殊教育総合研究所は、神奈川県横須賀市にあり、特殊教育（たとえば、障害児教育）を研究し、特殊教育に従事する職員の技術研修を目的とする機関です。職員数は、90名近く、相当に大きな研究所という印象です。職員の身分は、公務員型ということで大学との人事交流にも支障はないとのこと。詳しくは、ホームページ(<http://www.nise.go.jp/>)をご覧ください。

国立国語研究所は、東京都北区に所在していますが、近々、立川市に移転する予定とのこと。国立国語研究所は、国語及び国民の言語生活に関する科学的調査研究を行い、あわせて国語の合理化の確実な基礎を築くための事業を行う機関です。職員数は、70名くらいです。職員の身分は、やはり公務員型とのこと。詳しくは、ホームページ(<http://www.kokken.go.jp/>)をご覧ください。

2. 独立行政法人とは

法律的には、通則法と個別法により規定されます。予算措置については、運営交付金などという形で国費が投入されますが、一方では、自己収入を増やすようという指導もあるようです。予算の使い方については、これまでの厳しい制約はなくなり非常に弾力的な運用が可能となるようです。余剰金についても、規定内であれば次年度繰り越しが可能となるようです。

法人としての活動は、まず中期目標の立案から始まります。目標立案については文部科学省との厳しいやりとりがあるようです。形式的ですが、文部科学大臣から機関に指示という形で認定されるようです。この中期目標の期間は5年間となります。

これを受けて法人側は目標を実現するための計画を設定します。この計画は、やや抽象的な内容となる目標をより具体的に数値目標などもあげて遂行するものとして作成されます。そして、法人は1年ごとに文部科学省独立行政法人評価委員会に事業報告書を提出して評価を受けます。

法人は評価結果の通知、運營業務の改善等の勧告を受けることとなります。中期目標終了時には、中期目標に関わる事業報告書を文部科学大臣に提出することになり、法人の業務を継続させる必要性、組織の在り方まで評価されることとなります。

3. 独立行政法人と図書室の関係

この問題は、各々の法人の目標中の付置された図書室の位置づけがどうなるかによると思われます。図書室を通じての情報普及活動を重視する法人とそうでない法人とでは図書室に関わる計画の内容も相当に違うことになると思います。両研究所ともに、研究活動が最も重要な柱となることもあり、図書室については中期計画ではあまり重視されていません。その意味では、これまでと図書室としての活動に大きな変化はないとのことでした。

もしも、情報普及活動が重視される法人であれば、図書室の活動は、研究活動などと比較して数値目標が立てやすいため、中期計画も所蔵冊数、利用件数、データベースのアク

セス件数の増加などの数値目標を設定して、それについて評価されることになると思われます。以上は、研究所に付置された図書室の場合ですが、附属図書館、その分館という場合には図書館活動そのものが目標となりますので、目標、計画、評価も異なると思います。

4. 図書資料の財産目録について

京都大学には、600万冊の図書が所蔵されており、図書原簿をもとにして財産目録を作成することは不可能であろうという話になっています。両機関とも何万冊かの図書資料を所蔵しており、どうしたのであろうかと注目しておりました。財産目録については、両機関とも50万円以上のものを財産として登録するとのことで、高額な図書資料はないため、図書資料の財産目録は作成していないとのことでした。

このとおりを国立大学の図書館、図書室に適応することは無理であろうと思います。購入金額から見ると50万円を超える図書資料はそう多くはないと思いますが、購入額では判断できない資料としての価値もあります。国宝の今昔物語を財産目録としてあげないわけにはいかないでしょう。

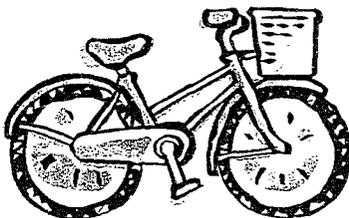
600万冊の図書総てを財産目録にすることは絶対不可能ですが、京都大学所蔵図書資料の評価委員会を組織して、貴重資料を評価し財産目録を作成すべきではないかと思えます。この目録は、図書資料を管理する意味での、図書原簿と違い、貴重資料の宝庫としての京都大学を評価する目録となると思います。

5. まとめ

両機関ともたいへん親切にご教示頂ました。両機関ともに、今後の評価の手続きなども手探り状態であるとのことで、まだまだ未定ということも多いようです。京都大学でも、新年度から独立行政法人化にむけて「大学情報収集・分析センター」の設置など動きがあるようです。

目標、計画、評価という一連の流れは、国立大学においても同様になると思いますが、非常に厳しい評価を受けて、一部の国立大学では存続さえも危うくなるという事態も考えられます。逆に考えれば、図書館・室としてこれだけの活動をして評価してもらいますと主張すれば、より多くの予算、職員を獲得できる可能性もあります。独立行政法人化を図書館の存在意義を主張するいい機会として前向きにとらえることもできるのではないかと思います。

かなもり・たかゆき (京都大学経済研究所図書室)



第7回京都支部委員会

日 時：2002年3月12日（火）19:00 - 20:00
 場 所：京都大学附属図書館3Fスタッフルラウンジ
 出 席：赤澤、大館、金森、吉田

報告事項

1. 近畿4支部新春合同例会「奈良は歴史の桜舞台」（2月9日）
 - ・京都支部から4名参加
2. 会員情報
 - ・退会者 1名
 - ・京都支部会員 93名→92名
3. 財政情報
 - ・会費納入者 56名（納入率60%）



審議事項

1. 1日セミナーについて
 - ・講師、テーマについて企画担当に一任中。
2. 見学会について
 - ・関西外国語大学の新しい図書館見学の特徴について調査中。
3. 支部報について
 - 1) 3月号以降について
 - 国語研究所・特殊教育総合研究所紹介
 - 数珠つなぎ（システム・デザイン（株）から）
 - 2) 4月号について
 - 立命館大学コアデータベース講習会について
 - 3) 5月号について
 - 数珠つなぎ（大阪市立大学から）

次回支部委員会 4月9日（火）

ちょっと一服！ おもしろ雑学！

●ホッチキスとトレンチコートと戦車の関係●

我々が文房具として使っているホッチキスは機関銃からヒントを得たと言われていま

す。針（弾丸）を連続して送り込んで打ち出す点が同じなのです。その機関銃は1872年、アメリカのベンジャミン・B・ホッチキスによって発明されました。この新兵器は各国で早速採用され、今までの戦略を一変します。

なにしろ大量に弾丸をばらまくので、危なくて突撃が出来ません。日露戦争の日本軍も突撃の度に大量の犠牲者を出しました。当時としては究極の防御兵器だったわけです。

第一次世界大戦ではドイツとフランスの間で大量の機関銃が使われましたが、何しろ攻めた方は機関銃によって大被害を被るので、塹壕（ざんごう）を掘って両軍ずっと土の中でにらみ合ったままという前代未聞の戦争になりました。

（両軍の掘った塹壕は長大な物で、北は英仏海峡、南はスイス国境まで及んだ。）

戦争ですから雨が降っても傘をさすわけにはいきません。アクアスキュータム社は、雨の日でも快適に過ごせるように撥水性のコートを開発し、英軍はこれを将校用に大量に採用しました。塹壕（＝英語でトレンチ）用コートというわけです。

トレンチコートの袖についているベルトは雨が入らないための工夫で本来は飾りではありません。

さて、英軍はにらみ合ったまま対峙（たいじ）している西部戦線を打破する為に塹壕を乗り越えられ、機関銃を跳ね返す装甲（＝鉄の鎧）をつけた秘密兵器を投入します。これはマークⅠ戦車の事ですが、当時は軍事機密であったので単なる『水槽』ということで極秘に輸送されました。だから戦車のことを英語でタンク（＝水槽）と呼ぶのです。

ホッチキス氏によって機関銃が発明されなければ、ホッチキスもトレンチコートも戦車もこの世に存在しなかったかも知れません。

コンピュエンス・ストアも軍事技術（兵站＝へいたん）の平和利用らしいですが、いくら便利でも戦争がルーツなのは残念ですね。

(6 ページ 級の続き)

これらの作業は図書館での仕事のほんの一部であります。現在の会社での営業をやり始めてから、図書館の皆様方の業務内容の詳細な部分がかかってきました。項目にすると、①利用者と直接関わるカウンター、レファレンス(貸し出し返却や他大学へのコピー依頼等)等業務②業者への発注・受入業務③目録・分類等業務④装備業務⑤整理・配架等業務の五項目ぐらいになるのではないのでしょうか。

③については、各大学にそれぞれ目録規則があり、日本目録規則等に準拠した上で各大学独自の規則を加えています。この部分で各大学の目録、分類に対する姿勢が明確になり、大学の蔵書の特色も出てきます。そして、ローカルデータ作成と国立情報学研究所(NII)への登録や、分類表や請求記号表による請求記号付与が、目録作成業務の主な内容となります。

③の業務の中で、各大学の図書館システムのローカルデータのみで、NIIに未登録の情報を入力作業や、カードや冊子体のローカルデータを図書館システムに入力する作業、つまり、遡及入力作業を、図書館の皆様方に代って行う仕事は現在私が営業担当をしております部署の業務の始まりです。

しかし、今では上記①～⑤の業務(レファレンスを除く)を業者に委託する大学図書館も増えてまいりました。俗に言うアウトソーシングに近い状態になってきました。私の営業内容も、ほぼ全般的な図書館業務の請負作業を受注する事を目指した営業活動になりつつあります。

大学での収入が年々減少(少子化による受験生の減少の為)していく為、職員の削減が始まり、現在の不況が重なり、アウトソーシング化が加速しています。その結果、図書館業務のプロパーがいなくなり、その部分を業者が全て賄い、管理する者のみが正職員であるといった状態の大学図書館も存在するようになってきました。もちろん、以前から一部外注というのはありましたが。

国立大学も同様、独立行政法人化に伴い、アウトソーシングできる部署は積極的に業務委託していく方向で検討されています。

業務委託をした場合、作業者のレベルを一定に保つことができるメリットはあります。ただし、昔のように『生き字引』と言われる様な人材は存在しなくなります。希望的予想しては、常に最新の図書館システムや、資料収集の形態や資料の電子化に対応できる体制を維持できるようにはなるのではないのでしょうか。

約16年に渡り、図書館と関わりのある仕事をしてまいりました。専任不在で、ほとんどの業務を業者に委託している図書館が、存在し増えていく可能性があるということについては全く考えられませんでした。公立図書館も同様の方向に進んでいます。しかし、あくまで個人的な考えですが、知識や経験から伝えることのできるいろいろな情報を持った人材を育成し、継承することのできない図書館というのは、本当の意味での図書館ではないと思います。景気が回復すれば、アウトソーシングする人数を減らして、専任の人材を少しずつ増やしていくかもしれません、一度パターン化するとなかなか元には戻れない気がします。

21世紀の図書館というのはどんな形態で存続していくのでしょうか?パソコンがあればパソコンの中の図書館で資料を探し、全文を見ることが出来る時代がくるかもしれません。10年先には現実となっているかもしれませんが、それも仕方のない事かもしれません。会社をリタイアするまで図書館の皆様と関わっていければと今、考えております。

